

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	私達は、利用者と共に地域社会の一員として、生活できるよう努めます。という理念のもと地域密着型を目指している。	理念の具体例として日常的にボランティアを受け入れたり近隣住民が食事をしにくるなど入居者が色々な方と付き合えるよう支援している。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	事あるごとに管理者、職員で理念を読み上げ理念の共有に努めている。	カンファレンスや苑内研修時などに理念を読み上げている。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域の行事に参加することはもちろん、苑の行事にも地域の方々が気軽に参加できるように積極的に取り組みや声かけを行っている。	地域の方々が行事以外でも気軽に立ち寄れる施設作りをしていく。
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	毎日の散歩において顔なじみになっており、お互いに挨拶をしている。時には庭に入らせていただきお花など見せて	散歩や行事の時は積極的にコミュニケーションをはかり地域の輪を広げるよう努めている。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	各行事ごとに地域の方に参加してもらっている。また、地域の行事にも積極的に参加し入居者との交流を深めている。	地域の行事、苑の行事とお互いに交流を図っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方との交流を行い、情報交換しながら自分たちが出来ることは行っている。		地域の高齢者やその家族の会合などに出向き、施設のあり方やその利用法など相談を受けたりアドバイスをおくる。
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価により、もう一度振り返り自己評価を行うことで取り組みの事実を具体化にし、改善できる所は積極的に実施している。		指導された所は積極的に改善していく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、地域、家族、民生委員、利用者等の方々と2ヶ月に1回運営推進会議を行っている。この会議により利用者へのケアや行事などのサービス向上に努めている。		運営推進会議には入居者に交替で出席していただいている。また、会議ごとに議事録を作成し、次回に活かせるよう努めている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村に指導を仰ぎ、分からないことは積極的に相談することによりサービスの質の向上を目指している。		市役所の研修に積極的に参加している。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	積極的に研修に参加し学ぶ機会を作っている。(現在成年後見制度などを活用されている方はいない。)		実習内容を他職員へ報告し知識を共有することにより相談があればいつでも対応できる体制をとっている。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修に参加している。また、平日頃から利用者を観察し入浴時や精神状態の変化などには特に注意して様子観察を行っている。		1名地域外ではあるが虐待の被害を訴えられていた方の入居を受け入れている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には分かりやすい言葉で説明し、よく理解していただけるよう心がけている。またいつでも相談に応じる旨を伝えている。</p>		<p>契約時に十分な説明を行い納得されてから署名、捺印をしていただいている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者との対話の中で苦情、不満などがあると記録し対応している。</p>		<p>入居者との対話に努めなるべく多くの苦情、不満を言ってもらえるよう努めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>来苑時には必ず近況報告及び個人の金銭出納帳の確認をお願いしている。またケアプラン作成時には担当者会議を開きケアと一緒に考えている。</p>		<p>来苑時には近況報告、個人の金銭出納帳の確認をもらっている。また、入金時には残金の確認とサインをお願いしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苑内に意見箱の設置と市役所の相談窓口の連絡先などを掲示している。また来苑時には個人ノートを手渡し不満・要望などあれば記入していただいている。</p>		<p>家族とのコミュニケーションの充実を図っている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常日頃から職員との会話に努め意見を反映させている。</p>		<p>職員の意見を取り入れることによって運営をスムーズに行うようにしている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時間帯に職員を確保している。また行事の時や利用者の状況によりスタッフを増やすなどの対応をとっている。</p>		<p>行事の時などにスタッフを増やしている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>勤務異動時は引き継ぎを行い利用者の負担にならないよう努めている。また職員との信頼関係を築き離職を防ぐよう努力している。</p>		<p>入居者に支障が出ないよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>採用にあたっては、本人と良く話し合いやる気のある人を採用している。また、本人が持っている能力を發揮、向上出来るよう配慮している。</p>	<p>職員の能力に合わせて苑内教育を行っている。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>管理者が入居者に対する言葉、態度で示している。また常にスタッフにも指導を行っている。</p>	<p>入居者に対しての言葉使い、及び接する態度には十分に注意を払っている。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>介護するにあたって段階に合わせて介護の指導を行い、介護の質の向上に努めている。また勤務に都合をつけ資格取得を薦めている。</p>	<p>ボディメカニクス等の説明を行いながら、介助の指導を行っている。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の同業者を訪問、見学し良い所を取り入れている。また、お互いの情報交換を密にし新しい活動やネットワークづくりに励んでいる。</p>	<p>同業者と常に情報交換を行っている。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の休みの希望を取り入れている。また職員がゆっくり休める環境作りを行っている。</p>	<p>職員の希望を取り入れ働きやすい環境になるよう努めている。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。</p>	<p>職員にきちんとした介護や新しい情報を伝え向上心を持って働けるよう努めている。</p>	<p>働きながら資格の取得を目指せるよう支援している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>インテーク面接の重要性を認識し、早く受け入れていただくため細かな思いまで受け止めるよう意識している。</p>	<p>相談があればいつでも対応できる体制をとっている。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談に来られた家族に対しては入居前に話を聴く機会を作り何を求めているか、これからどのようにすれば良いのかなどをしっかりと話し合っている。</p>	<p>最初だけではなくいつでも相談してもらえよう努めている。</p>
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談の内容は多岐にわたるが、何でも相談していただけるような雰囲気作りを心がけている。</p>	<p>話を良く聞き支援策の提示や他のサービスの紹介などを行っている。</p>
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望者には体験入居などを行っている。また、昼食時に家族と一緒に食事をするなど苑に馴染めるように工夫している。</p>	<p>体験入居や家族と一緒に苑で食事をしてもらっている。</p>
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯や調理などを一緒にすることによって入居者から学ぶことも多い。また、本人の好きなことを取り入れ共に楽しみながら過ごしている。</p>	<p>会話の中で色々なお話や知恵を学んでいる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の何らかのサインなどを読み取ったときには直ぐに家族に連絡を行い一緒に支えていっている。		日頃の様子を見て落ち込んでいるような時は家族に連絡し、面会または電話で入居者と会話をしてもらっている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人と家族がゆっくり会話できるよう環境作りを行い、積極的に面会できるよう支援している。		遠方から見えた御家族には、なるべく苑で一緒に食事をさせていただけるようお願いしている。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	馴染みの方と気軽に連絡を取れるようすることにより、面会に来られた方と入居者で喫茶店や馴染みの美容室などに行かされている。		誕生会や大きな行事の時は友人に連絡を取り一緒に参加してもらっている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わら合い、支え合えるよう努めている	利用者同士の会話が弾むよう最初は職員が間に入り会話のきっかけ作りに努めている。		利用者の性格や身体状況(難聴や体調不良)を考慮しながら対応する。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、ボランティアや地域住民として行事に参加してもらえるよう努めている。		サービス利用が終了してもその家族がいつでも相談出来るような苑を目指していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者や家族との会話に努め本人の希望、意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な場合は家族からの情報を得たり、本人本位の立場から希望、意向の把握に努めている。</p>	<p>入居者との会話に努めより多くの希望や意向を把握できるように努める。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式を用い家族及び入居者から話を聞くことよってこれまでの暮らしの把握に努めている。</p>	<p>入居者はこれまでの生活を忘れていたことがあるため、細かい内容でも思い出された時にはすぐに記録しこれまでの暮らしの把握に努める。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎朝のバイタルチェックを行い心身状態を把握している。また、バイタルチェックに異常がなくても顔色や行動を観察するように努めている。</p>	<p>毎日の状態や本人の希望に添った1日を過ごせるように努めている。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人には常日頃の会話により意見を把握している。家族は来苑時に、主治医には訪診時や受診時に意見やアイデアを出してもらう。</p>	<p>関係者各機関の意見を基に月に1度カンファレンスを行いそれを皆で共有し介護に反映している。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化があった時はその都度担当者会議を行い新たな介護計画を作成している。</p>	<p>病院からの退院時など身体的または精神的に大きく変化があれば直ちに介護計画書を作成している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の少しの変化にも対応できるように職員は申し送りノート、業務日誌、バイタルチェック表を確認し業務についている。また、個別に経過記録を記入し介護計画の見直しに活かしている。		業務に入る前の記録のチェック、申し送りの徹底を行い共有した意識、介護にて入居者に対応する。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を直ちに取り入れ、申し送りノートに記入し柔軟な対応を取っている。また、家族より要望が出しやすいよう様々な取り組みを行っている。		仕事に入る前に申し送りノートを確認し、サインをするようにしている。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特にボランティアや教育機関と協力しながら支援をしている。		散歩を通じて小学生と仲良くなり、リングプルを集めて得た車椅子を寄贈して頂く。また職場体験で小学生が当苑に学習に来るなど入居者にとって子供と接する良い機会になっている。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のほかのケアマネジャーとの交流、情報交換は行っているが現在他のサービスは利用していない。		要望や本人にとって必要と考えられれば直ぐに対応できるようにしている。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要があれば地域包括センターとの協働をしている。		必要に応じていつでも対応できるようにしている。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況や家族の希望に添って協力病院や訪問診療などのかかりつけ医を選び、適切な医療を受けられるよう努めている。		主治医との入居者に対するコミュニケーションに努めている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院のドクターまたはかかりつけのドクターと入居者が受診・往診時に利用者の状況を議論し最善の治療が受けられるよう支援している。		必要に応じて家族の協力のもとに受診している。
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、入居者の血圧、体温、顔色を観察し職員と協力し合い早期発見、早期治療を心がけている。		毎日、バイタルチェックや細かな変化は無い様子観察を行い記録している。
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された時は頻繁に見舞いにいき早期退院に向けて病院関係者との情報交換を行っている。		入院された入居者の状態を見ながら、仲の良い入居者とお見舞いに行き元気付くよう努めている。
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のために本人、家族の意志を個人ファイルに明記している。		話し合いにより本人、家族の意志を個人ファイルに残し介護者も共有している。
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をよ！良！暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の日々の状況を観察し、今後の対応等も家族、医者、事業者と検討し可能な限り本人、家族の意向にそった対応をしている。		ターミナルケアは主治医協力のもと行っている。
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人に合った治療が受けられるように、病院やその他関係機関との話し合い、情報交換に努めている。		住み替え時には介護添書を渡し、必要があれば電話や面会にて引継ぎを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者への声かけには特に注意し礼儀を重視している。また、記録に関してもプライバシー保護の為、管理を厳重に行っている。</p>	<p>これから入居者への言葉かけの指導を徹底していく。</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>本人がどんな希望を持っているのか小さな事でも気づけるよう毎日のコミュニケーションを大事にし、本人が納得して生活出来るよう支援している。</p>	<p>いつでも職員に意思が表せるよう会話の時間を多く持つようしている。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者が自由に出来るよう、時間毎の業務をなるべく決めずその日その日の本人のペースに合わせた支援を行っている。</p>	<p>その時々で入居者主体の生活が送れるよう支援している。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている</p>	<p>昔から着用している物や好きな服などを着用している。また、入居者の希望を聞きそのひとらしい姿で過ごせるよう支援している。</p>	<p>家族の協力を得ながら本人が望む美容を支援している。</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は職員も一緒に食べる事で食事の状況や味について話し合いながら食べている。また、調理・片付けについても入居者の状況を見ながら色々手伝いしている。</p>	<p>調理から片付けまで全てにおいて利用者と一緒にしている。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒、飲み物、おやつについては家族持参時や行事の時、または希望時に提供するようにしている。現在喫煙者はいない。</p>	<p>お酒の好きな入居者に就寝前のお酒を出したりしている。また、おやつについては糖尿病の入居者もいる為、一度苑で預かり希望時に渡している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本は時間毎の排泄を行っている。その他に移動時や訴え時、また入居者の行動を見て判断している。		車椅子使用の方でも希望者以外はポータブルトイレ等に頼らずトイレ誘導、介助を行っている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決まっているが基本は希望入浴を行っている。その為入居者の希望や状況に応じていつでも入浴できるよう支援している。		入浴を嫌う入居者に対していかに楽しめるような入浴を促して行くか、試行錯誤しながら行っている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝、晩の起床、就寝の声かけは行うが基本は入居者の意思に任せている。		なるべく夜間に気持ちよく休んで頂けるよう日中は体操やレクリエーション、散歩などを積極的に行っている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意なものや以前の趣味などを個別に行っている。		具体的内容として、編み物、カラオケ、散歩、買物、演芸など様々な取り組みを行っている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自小口現金を預かっており買物や外出時などに使っている。また、常時手元にお金がある事を希望される方はお金を渡しており、本人と毎日確認を行うようにしている。		本人の希望とその状況に応じ対応している。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞き、散歩や買物、ドライブなどを行っている。		季節にあわせ冬は昼から、夏は午前中に散歩を行っている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	季節に合わせて花見やもみじ狩りなど色々な場所へ外出を心がけている。また、買物ついでにドライブなどを行い気分転換に努めている。		外出のイベント時などにはスタッフを増やすなどして事故防止に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は職員が手伝い電話を出来る様にしている。また、手紙等は直接本人に手渡している。なかなか面会に来れない家族に対しては時々電話をして頂くようお願いしている。		気軽に連絡が取りあえるように対応している。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人が見えた時にはお部屋でゆっくり会話ができる環境作りを心がけている。		利用者の状況に応じて苑から電話をし、面会に来て頂けるようお願いする場合もある。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、正しく理解出来る様に身体拘束マニュアルを作成し苑内研修を開いている。		身体拘束に対する知識をより一層深め、苑全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいく。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には入居者以外は鍵をかけていない。また玄関にも鍵はかけておらず玄関に立てばチャイムが鳴るので、その都度確認を行っている。		本人が自由に過ごせるよう基本的に鍵は掛けないよう取り組んでいる。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者を一定の場所に拘束するのではなく、職員間で声を掛け合いながら所在や様子を把握し、安全に配慮している。		本人の生活パターンと職員間の連携により常時所在の確認を行っている。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各自、個室を持たれており自分の家具を利用されているのでそれぞれの設置場所などに危険がないか注意を払っている。		夜勤帯では洗剤などの危険なものは手の届かない場所になおしている。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火管理者のもと定期的に防火訓練を行っている。また、利用者一人一人の見守りを徹底し転倒や誤嚥などの防止に努めている。		毎日の入居者の状態に合わせ事故のないよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時はスムーズに動けるようマニュアルを作り定期的に訓練を行っている。また応急救護等の研修にも積極的に参加を促している。		業務上急変時の対応は必ず避けては通れないので、より一層のマニュアルの徹底と応急救護の技術の向上に努めていく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を行うと共に、災害時は地域との連携が重要と考え地域住民の方に避難などの協力を得ている。		災害時の避難経路の確認や役割分担などの確認を徹底して行っている。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについての説明は担当者会議や面会時などの時に話し合いを持っている。		いつでもどこでもリスクが起こる事と極力事故などが起こらないよう努める事を家族にしっかりと話し、理解して頂いている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行い少しでも異常がある場合は担当医師への報告を行っている。また、バイタルサインに異常が見られなくても普段と違う様子であれば要観察または報告を行っている。		出勤時には申し送りの徹底を行い情報の共有に努めている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用は個人ファイルに記載されており職員は毎回確認を行っている。異変がある場合は担当医師へ連絡をし支持を仰いでいる。		誤薬の危険を考え薬の担当者を決め徹底した薬の管理、服薬を行っている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の食材に野菜を多く取り入れ水分補給に努めている。また、体操や散歩を行う事で便秘の防止に努めている。		毎日の排便確認を行い、必要があれば服薬して頂く。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせ、なるべく自分で行っていただけるよう歯磨きの声かけ誘導、介助を行っている。		毎食後、洗面誘導、声かけ、介助を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量を記録し栄養のバランスには十分注意している。また、水分についても自分で摂取出来ない方は量を決め、なるべく多くの水分を取ってもらうよう支援している。		いつでもお茶が飲めるよう利用者の近くにお茶とコップを常時準備している。また、定時にも水分補給を促している。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては毎年予防接種を行っている。また疥癬は日頃からかからないよう清潔の保持に努め、かかった場合は衣服などの熱消毒を行い他入居者の衣服とは別に洗濯している。		職員が感染症について理解し、しっかりと予防に努めている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なものを使い事業所で作った野菜も取り入れている。また、調理用具等は滅菌した使用している。		食材の賞味期限や調理用具には細心の注意を払い対応している。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には生花、玄関周りには植木で花を植え親しみやすい雰囲気を出している。		入居者と一緒に花の手入れを行っている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節ごとに職員と利用者で飾り物をしている。また、所々に植物を置き、落ち着いた空間になるよう工夫している。		廊下等にもこれから季節感のある飾り物などをしていきたいと考えている。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を考えゆったりと過ごせる空間を作っている。また、仲の良い入居者同士がお話を出来る環境作りも行っている。		共同スペースにも必ず自分の居場所ができるようテーブルにネームのシールを貼るなどの工夫をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使っていたタンスや私物を持ち込んで本人だけの個性ある部屋作りをしている。		家族からの手紙や写真を飾ったりして過ごしやすい環境を作っている。
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け外気を取り入れたり温度調節に配慮している。また、こまめに布団を干している。		夏は毎朝、冬は昼間等に必ず 1日 1回は苑全体の換気を行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内ほとんどに手摺を設置している。また手摺の高さは70センチと低めにし高齢者が歩きやすい工夫している。また、苑内はバリアフリーとなっており、歩行が不安定な入居者でもなるべく自立で歩けるようになっている。		歩行はなるべく杖や手摺を使用し自立して行っていただきたい。職員は自立支援の為、必要以上の介助はせず、見守りと声かけにて対応している。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立の為と言って全てを本人が行うのではなく、出来ることや分かる事を維持 向上できるよう支援している。		その日その日で分かる事もあれば分からない事もある為、毎日の状態を確認し支援している。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように工夫している	天気の良い日に日向ぼっこや花の手入れ、外でお茶を飲んだりしている。		1日に 1回は外の空気に触れるよう支援している。

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)